

## ◆活動団体

団体名：青石畳通り活性化委員会・松江観光協会美保関町支部

連絡先：TEL 0852-55-5956 メール：rekimachi@city.matsue.lg.jp

URL：https://www.mihonoseki-kankou.jp/see/see\_aoishidatami/

## ◆活動内容

R5年度

### ● ㊦びすライナー運行による交通利便性向上

- ・米子空港～境港駅～美保神社～美保関灯台を結ぶ直通バスを繁忙期に運行。青石畳通りへの来訪の利便性向上を目的に運行を行っていたが、コロナ禍以降利用客数が伸び悩み令和5年度より運行を休止した。
- ・美保神社～美保関灯台間の新たな旅客運送として『グリーンスローモビリティ』の導入に向けた実証実験が行われている。



### ● もち花まつり

- ・旧暦正月期間に閑散期対策として実施して9回目(2月10日～2月15日)。
- ・美保関に古くから伝わる正月飾り「もち花飾り(クロモジに白い餅をつけた飾り物)」の風習を後世に残していくため、青石畳通り周辺にて、この飾り付けを中心に「祭り」として風習を復活し、新春の美保関の街並みを彩り、イメージアップに貢献した。
- ・コロナ禍の影響は落ち着き、観光客も回復傾向にあった。「もち花飾り製作」のほか、各観光関連施設にて「もち花茶」や「もち花クッキー」の販売のほか、振る舞い、香りの演出などの“おもてなし”をおこなった。
- ・祭り期間中、もち花飾り作り体験を観光客向けに実施したが参加者は15名とコロナ禍前の水準に戻りつつあった。(昨年4名)。
- ・もち花の木(クロモジ)から取れる成分が、インフルエンザ予防にも効果があると知られるようになり、「もち花茶」を求めてリピーターが祭期間中に来訪するようになった。



### ● 青石畳通りガイド養成

- ・青石畳通りの成り立ちや歴史・神話及び美保神社や美保関灯台を含めた観光ガイドの育成を継続中。またジオパーク活動との連携による地質学的なガイド(敷石などの話)もできるように教育を開始。現在5名が対応可能。(認定ジオガイドは1名)
- ・一方で神社好きの女性が集う任意団体「社♡ガール」とも連携し、情報交換を行うなど、相互間でガイド要請の協力も継続的に行った。

●青石畳通りライトアップ～陰翳礼讃・青の共演～

- ・平成 27 年より青石畳通りを引き立てるためにライトアップを企画、令和 5 年は美保関旅館組合と協力し、LED照明から蠟燭へ戻し、9 月～10 月に展示を行った。広瀬染め(藍染)の布に五本松節の歌詞や美保関を題材にした俳句・短歌などを墨で書き上げた竹細工の灯籠で通りを照らすことで、灯籠の光と青石畳通りの碧(あお)・広瀬染めの藍(あお)を陰翳礼讃青の共演と称し、歴史ある街並みを演出。夜景を目的とした誘客に寄与した。
- ・今年度は、関連イベントは灯台ライトアップとのコラボとフォトコンテストを開催した。



R 5 年度

●青石畳通り空き店舗活用事業

- ・8 月 7 日の七日えびす祭の日に青石畳通りのイベントスペース「引地」にて、「ハピ！松江イベント」が開催された。ガラスペンダント作りや整体、なんでもアート体験が行われ、地元の方や青石畳通りを訪れた観光客の方が珍しそうに、体験をしていた。



- ・9 月 15 日(金)に松江・安来市内の高校美術部生徒が「松江地区高文連美術コンクール」に出品する作品制作のために美保関を訪れた。美保神社や青石畳通り、美保関灯台等作品のテーマになるスポットを探しながら住民の方々とも交流し思い思いの一枚を書き上げていた。今回も学校側へお願いし、コンクールで選ばれた作品の中から 15 点を 11 月 3 日、4 日に開催されたマリンハートフェスタの会場へ展示した。



## R 5 年度

- ・風情ある街づくりの一環として、美術制作合宿によりご縁ができた「松江地区高校美術部生徒(9校)」へ4年前より製作を依頼。青石畳通りの景観に合わせた色とデザインで製作された風鈴 84 基を設置した(7月24日~8月31日)。



猛暑の中、通りを抜ける風で、爽やかな音色を奏でる風鈴に、目と耳で癒される空間を演出。また来訪者の中で、撮った写真をSNS等でアップするなど、この景観を自発的に紹介する人も多く見受けられた。

- ・美保関地区に残る歴史的建造物一斉公開イベント「美保関セキノイチ」が開催された。6月10日(土)の前夜祭では夕ざり茶席にて夜のお茶を楽しめるほか、ハンドヒーリングや古本・雑貨などの出店があった。また、美保神社から青石畳通りをぬけて美保小路まで、行燈によるライトアップが行われた。6月11日(日)本祭では歴史的建造物を巡るまちあるきや古民家での出店の他に地元有志による「ホーライエッチャ踊り」が町に繰り出した。その他にもさと原人によるバルーンアートやジロー今村によるストリートパフォーマンスが行われ、美保神社宝物殿や美保関灯台内部の特別公開も行われた。



### ●令和5年度のその他の取り組み

- ・5月28日(日)に「えびす・だいこく 100 kmマラソン大会」が開催された。当日は早朝5:30に美保神社を出発し、全国から集まった1,479人がゴールの出雲大社を目指して、美保関町内を駆け抜けた。気温が、昨年と比べると低くはなったが、脱水症状や熱中症により、リタイアする選手が多く、完走率は個人62.6%、全体で84.6%と過酷な大会となった。しかし、参加された選手やボランティアスタッフ、関係者の皆様の協力によって大きなトラブルもなく大会を終えることができた。



- ・7月17日(月・海の日)に『全日本海上綱引き選手権大会』がコロナ禍で中止となっていたが四年ぶりに北浦海水浴場で開催された。

今年も多くの選手が参加し49チーム約400名が思い思いのパフォーマンスで熱戦を繰り広げた。総合優勝は「雲南市居酒屋もみじ・めいぶる」



チーム(5連覇)、女子の部の優勝は「dollars」チームとなった。梅雨が明けない中ではあったが、大会当日は晴天に恵まれ、多くの方々にご協力いただき、無事大会を終えることができた。

- ・5月のゴールデンウィークにつつじまつりを開催、フォトコンテスト、俳句川柳コンテストが行われた。

- ・フォトコンテスト

最優秀作品 Hideki.kuni3 様  
 優秀作品 hihara.masayuki 様  
 同 tom\_jan97 様



- ・俳句川柳コンテスト

最優秀賞	咲き盛る 躑躅の山に 鳶の笛	松江市・男性
優秀賞	息はずむ 夫の背中 山つつじ	倉吉市・女性
同	鮮やかな つつじの向こう 白い船	米子市・男性
同	つつじ見て 気持ちがいいな ハイキング	松江市・女性
同	島の歌 足が早まる つつじ山	松江市・女性
同	共にあがむ 海のかなたの 伯耆富士	広島市・男性

- ・合言葉ラリーにつきましては、応募者の中から抽選で3名の方選出し、フォトコンテストや俳句川柳コンテスト受賞者と共に特産品をお送った。

- ・10月7日、8日の二日間、美保関灯台 and 岬ナイトが開催され、延べ1,000人を超える来場者が訪れた。

7日限定では、美保関灯台と灯台ビュッフェの壁面がカラフルにライトアップされ、来場者の方たちはカメラを構えて思い思いのカットを撮影されていた。他にも7日夜には地元シンガーソングライターのYUMI & HM ピースによる生演奏ライブも行われ、幻想的な光と音の空間の演出に、耳を傾け、余韻に浸っていた。併せて両日には美保関灯台内部の一般公開が行われ、昼夜合わせて766名の方が登上し、普段見ることができない灯台レンズを見ることができ喜んでた。



- ・個人型旅行者をターゲットに、出雲大社と美保神社の両社の参拝を促す「えびす・だいきく両参り」企画を展開。「旅行雑誌るるぶ」への掲載や自社HPでの積極的な宣伝を継続して行った。コロナ禍が落ち着き、個人旅行者が飛躍的に増加バスツアーが回復したことにより令和5年の美保神社年間参拝者数が過去10年間で最高の72万人を超えた。